

☆年間第14主日(7月9日)の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

第一朗読 (ゼカリヤの預言 9章9-10節)

主は言われる。

娘シオンよ、大いに踊れ。娘エルサレムよ、歓呼の声をあげよ。

見よ、あなたの王が来る。

彼は神に従い、勝利を与えられた者

高ぶることなく、ろばに乗って来る

雌ろばの子であるろばに乗って。

わたしはエフライムから戦車を

エルサレムから軍馬を絶つ。

戦いの弓は絶たれ

諸国の民に平和が告げられる。

彼の支配は海から海へ

大河から地の果てにまで及ぶ。

第二朗読 (使徒パウロのローマの教会への手紙 9章8, 11-13節)

皆さん、神の霊があなたがたの内に宿っているかぎり、あなたがたは、肉ではなく霊の支配下にいます。キリストの霊を持たない者は、キリストに属していません。もし、イエスを死者の中から復活させた方の霊が、あなたがたの内に宿っているなら、キリストを死者の中から復活させた方は、あなたがたの内に宿っているその霊によって、あなたがたの死ぬはずの体をも生かしてくださるでしょう。それで、兄弟たち、わたしたちには一つの義務がありますが、それは、肉に従って生きなければならないという、肉に対する義務ではありません。肉に従って生きるなら、あなたがたは死にます。しかし、霊によって体の仕業を絶つならば、あなたがたは生きています。

福音朗読（マタイによる福音書 11章 25-30節）

そのとき、イエスはこう言われた。「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました。そうです、父よ、これは御心に適うことでした。すべてのことは、父からわたしに任せられています。父のほかに子を知る者はなく、子と、子が示そうと思う者のほかには、父を知る者はいません。疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」

朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

暑い日が続いていますね。梅雨明けももうすぐでしょうか。夏休みが待ち遠しいのか、はたまた暑い季節は嫌なのかなかなか難しいところですね。「夜でも熱中症になります。・・」と近くの行政無線のスピーカーが注意を呼び掛けています。気をつけたいですね。

さて今日の主日のミサでは何が私たちに呼びかけられているのでしょうか。集会祈願には「信じるものを罪の束縛から解放し、終わりのない喜びに与らせてください」とあります。罪からの解放と、終わりのない喜びが願われているのですね。ミサの朗読をその観点から読んでみましょう。

第一朗読（ゼカリヤの預言 9章 9-10節）

ここではエルサレムを解放する王が来ると預言されています。「ロバに乗ってその王は来る」のです。この王は戦車や軍馬を絶ち、諸国の民に平和が告げるのです。この個所はマタイ福音書ではイエスのエルサレム入場の場面で引用されている箇所です。つまりイエスはエルサレムをそして諸国の民を罪から解放する王として来られるとマタイは考えたのです。またその王は

圧倒的な力を持ちながら高ぶることがないともゼカリヤは述べています。つまり暴力的な力で支配する存在ではなく、口バに乗る穏やかな力をもって平和を実現するのです。その意味でゼカリヤは救い主イエスの到来とその在り方を鋭く預言していると言えるでしょう。

第二朗読 (使徒パウロのローマの教会への手紙 9章 8, 11-13 節)

「イエスを死者の中から復活させた方の霊」つまり聖霊があなたがたのうちに宿っているなら、あなたがたは生きるとパウロは力説しています。この聖霊を正しく保つことが私たちに与えられている「一つの義務」ですとパウロは信徒を励ましています。私が自分の体の欲望に負けないことが大切だとパウロは述べているのです。当時の教会の中には世界都市ローマの中で暮らすことで、いろいろな誘惑にさらされていたのです。偶像崇拝的な儀式や迷信に信徒と言えども誘惑されていたのでしょう。そういうものの危険性に気づくようにパウロは勧告しているのです。現在の私たちも例外ではなく、経済優先の生活、拝金主義の生活で、イエスが私たちに求めておられることから外れてしまっていないか考える必要があります。

福音朗読 (マタイによる福音書 11章 25-30 節)

今日の福音の初めの方に「これらのことを知恵あるものや・・・」と書いてあります。「これら」とは何を指しているのでしょうか。この章の前の方では洗礼者ヨハネに対する称賛や、その時代に対する非難、不信仰な街に対する非難が述べられています。そこから考えると人間が普通に考え行っていることとは違う、隠されているきらりと光る神の知恵のことを述べているのではないかと思います。「私は柔和で謙遜なもの」「私のくびきは負いやすく、私の荷は軽い」からだイエスは人々に語っています。世の支配者はその力を傲慢と暴力で主張するのに対しイエスは私は柔和で謙遜な仕方でああなたがたを導き、その導き方は受けやすく安らぎもたらすものだとして述べています。これらのことを理解できるのは幼子のような純真で神のことばを素直に受け入れる柔らかい心を持つ者だけなのです。



カサブランカ (2023年7月)

P.S.

暑い夏が訪れます。平日のミサがお休みになる日もありますので、メモなどお願いします。主日のミサも含め暑さ対策のため当分の間司祭の服もアルバにストラだけになりますのでご了承ください。

**カトリック足立教会
主任司祭 野口重光**